

高雄市と日系企業

公益財団法人交流協会高雄事務所次長 菅原 忠

私が高雄に着任（2009年6月下旬）した約1ヶ月余りに台風8号が台湾を直撃しました。山間の小林村（旧高雄県甲仙郷）が土石流に呑まれ数百人が生き埋めとなり、日本にも映像が配信された知本温泉のホテル倒壊など、南東部に過去50年間で最悪の被害をもたらしたと言われる「8・8台風」です。日本からはJICA国際緊急援助隊が派遣されるなど救援活動支援等に追われました。昨年の3・11東日本大震災被害に対する台湾からの多大な支援・激励は、この時と1999年に台湾中部を襲った「921大地震」の被災に際して、日本から最大の支援を頂いたことに対する恩返しとの声を聞くと、台湾の方々の誠意とともに情けは人の・・・の大切さを改めて感じています。

10月に入り高雄市政府経済発展局・劉馨正局長から相談を受けました。高雄市は外資誘致のために投資説明会や陳菊市長によるトップセールスを行っています。市の政策について進出日本企業から意見を聞く機会を作りたいというのです。私からは日本人会法人部会（正式には台湾日本人会高雄支部法人部委員会）会員の月例「木曜会」の存在とフィリピン駐在時代の経験（輸出貢献の著しい企業や団体を顕彰する大統領表彰「フィリピン・アワード」にJETRO、住友商事などが選ばれ、マラカニアン宮殿にて時のラモス大統領から授与されたことが、後の仕事をする上で大きな励みとPRになりました。）を紹介して表彰制度創設を提案しました。早速、市政府の意向

等を神宮法人部会委員長（台湾住友商事高雄支店長）他各運営委員に相談したところ賛成頂いたので、12月に同運営委員メンバーと市側とで顔合わせ会合を持ちました。席上、劉局長から政策説明会、美濃（旧高雄県美濃鎮）見学会及び企業表彰を市主催で行うとの提案。これにより翌年3月度木曜会での説明会は普段より多くの会員が出席して局長との交流の場となり、6月の美濃視察は会員の家族も参加して新観光地を知る機会となりました。因みに美濃は今年3月に交通部観光局が発表した「台湾を代表する十大観光小城」の一つに選出されました。企業表彰は、小出副委員長（萬寶至馬達総経理・現台湾日本人会高雄支部長）の「表彰対象は大変な状況の中でも撤退せずに頑張っている企業を。」との意見に市側も賛同。9月、市政府は外国企業表彰制度の法制化を整え、第1回は多岐にわたり市に貢献している日系企業のみを対象として5社を表彰するとの連絡がありました。これを受けて高雄日本人会事務局から被表彰企業を募集し、運営委員会にて5社を選考して市に推薦しました。11月11日第1回表彰式。生憎、市長は急遽欠席となりましたが、名代として李永徳副市長が出席して盛大に開催されました。

2010年12月25日、高雄市と高雄県の合併に伴い、新高雄市の政府人事は一新され劉局長は退任してしまいました。これで企業表彰は1回限りで終わりかと思われましたが、市長が後任として指

名した藍健菖（前市議会議員）新局長は、法人部会運営委員の皆さんの熱意に応え、かつその効果と意義を認めて表彰制度の継続実施を約束しました。更に 2011 年 9 月には市長が初めて高雄市進出日系企業代表 12 社との懇談会を持ち、今後も日本企業を大切にしたい市（まち）創りを行う姿勢を示しました。11 月 17 日第 2 回表彰式が開催され、日系企業 5 社に対して市長より賞状と盾が授与されました。

現在、在高雄市の日系企業数は 168 社（2011 年 12 月末）、法人部会会員数 87 社。数においては台

北と比べものになりませんが、市長の日本企業を重視する姿勢の他に、天候の良さ、物価の安さ（多少）、人情味の濃さ、交通渋滞が（比較的）少ない等々、暮らし易さでは勝っているのではと思います（あくまで私見です）。日本に帰国される際、企業人のほぼ全ての皆さんが「是非また来たい。」と挨拶を結ばれると、如何にして“日本に優しい高雄”を日本中に知って貰えるか日々苦心しています。なお、今年 3 月、劉馨正氏は新竹瓦斯会社の総経理に就任との報道に接し、喜ばしい限りです。